



戸森の線刻画に生きた化石?! アマミイボイモリ

イボイモリの体はサラッと乾いてトカゲと同じ^{はちゆうらい}爬虫類のようですが、カエルと同じ^{りょうせいらい}両生類です。産卵期はちょうど、1月下旬～3月ごろ。カエルと違い、幼生のころは首のまわりに鰓(えら)があるので、愛らしいウーパールーパーのような姿をしています。ちなみに、ウーパールーパー／メキシコサンショウウオは同じ両生類ですが科が異なるため、私たちヒトとテナガザルくらい遠縁です。生きた化石といわれるのは、恐竜の絶滅後、まだクジラの祖先が陸上を歩いていた時代の姿をとどめているから・・・だそうです。生態はまだ謎にまつまれ、幼生のうちは3カ月くらいでどんどん成長するものの、5センチほどになると鰓のない姿へ変態し、上陸してからは超省エネ・超少食で過ごすため、成長がとてもゆっくりになります。繁殖できるようになるまで3年以上、最大の成体になるまで10年以上もかかるスローライフのようです。鹿児島県と沖縄県の天然記念物、環境省の国内野生希少動植物種に指定されています。

新種になりました♪

昨年2022年11月、日本爬虫類両生類学会において、奄美群島の個体群は沖縄本島周辺の個体群と異なる、アマミイボイモリとして独立しました。



もっと情報が見られる
電子版はこちら



※ 戸森の線刻画は工事中ですが、観察できます。駐車場は整備中なので、安全な場所へ駐車し、歩いて行きましょう。編集：天城町教育委員会 具志堅亮、山田文彦